

高瀬亀千代さん

長い間「苦労様でした

患者会活動に貢献

高瀬亀千代さんが5月20日に永眠されました。今回は高瀬さんの追悼号として、「さわやか」を発行します。

高瀬さんは、昭和48年に透析を導入しました。38歳の若さでした。福腎協初代会長浦川氏の時代から、患者会運動に参加してきました。福腎協の様々な会議には、高瀬さんの顔が必ずありました。熱心に活動に努力してきました。

福腎協20周年記念事業に、座談会の企画をくみ、高瀬さんにも、パネラーをお願いしました。高瀬さんは、検査前になると、食事管理をメチャクチャにすると聞いていました。普通の人は検査前になると食事管理をキチンとして、データをよく見せようとするのです。高瀬さんはこの逆です。

高瀬さん曰く「食事管理を

「さわやか」の皆様

お世話様になりました

高瀬 芳子

通院介護センター「さわやか」の会長さん、コーディネーター並びにボランティアの皆様、大変お世話様になりました。

思えば平成8年「さわやか」発足と同時に第一号として利用させていただき、何人もボランティアの方々と接し身にあまるお世話、心遣いをしていただき、毎回頭のさが

る思いで一杯でした。通院以外、ほとんど外出することがない体になりましたがボランティアさんの温かい手助けをかり、週3回通院が出来、ひとときの時間、世間話やら昔の思い出話など聞いていただき透析の疲れも忘れることができました。

故人に代わり心から御礼申し上げます。

セーブして、いいデータが出たとしても、本当の数字ではない。メチャクチャにしたデータなら、自分の限度がわかるではないですか」と言っていました。独自のポリシーをもっていました。

若い先生には「透析経験は俺の方が長い。俺が透析始めた年に、生まれているのに、何がわかるか」と先生を怒り飛ばすこともありました。

その反面、透析座談会の時は、優等生発言で日頃の生活とは程遠い、真面目な発言をしていました。

通院介護事業「さわやか」の第一号患者さんです。送迎に男性のボランティアさんが行くと、奥様に支えられなければ歩けないのに、女性のボランティアさんが行くと「お前はいらん、一人で歩ける」と女性の手を借りて車に乗ったそうです。男性は何才になっても見栄を張るのです。

髪も白髪まじりですが、黒く染めていました。友人が遊びにきて、「オヤ！髪が黒くなってるが」と驚くと、「油の流出事故があったらう。その

最後に皆様の御健康をお祈り申し上げます。

ここにボランティアに行つて油に頭を突っ込んで黒くなってしまった」と真面目な顔をしてジョークを飛ばしていました。なかなか、ユーモアのセンスのある方でした。

最後は入院が多くなりベッドでの生活でした。その頃、高瀬さんは、病魔にうなされながら、「オイ、今日は誰か迎えにくるんかもう、来て待つてもらってるのではない

か」とうわ言を言って奥様を困らせていました。

最後まで、家に帰りたいと言っていたそうです。

透析歴27年、長いこと生命を維持してきた、高瀬さんの根性にただ頭が下がる思いです。享年65歳でした。

「さわやか」は天国までの送迎は出来ません。

高瀬亀千代さん！安らかにお眠り下さい。 —合掌—

「さわやか」の宣伝ありがとう

「さわやか」コーディネーター

山田 浩美

平成8年10月1日「小倉第一病院で透析をしている高瀬亀千代ですが、今足が悪くてタクシーで通院しています。

『さわやか』さんのサービスを利用したいのですが」という電話をもらったのが高瀬さんとの最初の出会いでした。それから高瀬さんは「さわやか」の最初の送迎車者さんとなりました。

その頃「さわやか」は、全国初の通院介護支援事業の発足ということで全腎協やNHKの取材が押しかけて来ていました。それを高瀬さんに一

手に引き受けてもらいました。「山田さんの頼みなら仕方ないネ」といいながら、しっかり全国に「さわやか」の宣伝してくれました。

第一回ボランティア研修会にも足の悪いのを押して出席してくださり大いにボランティアさんを励ましていただきました。平成10年八幡地区の担当となった私は高瀬さんと電話をすることもなくなりました。が時折、高瀬さんの様子は聞いていました。

訃報は突然やってきました。

高瀬さん26年間透析、本当にお疲れさまでした。私は、私たちのこの仕事が高瀬さんの人生の中のほんの0、何%かの役に立ったと信じ、それを糧にこれからも頑張ります。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

日時…… 平成11年7月3日(土) 10:00~
場所…… 東部障害者福祉会館(NHK横・北警察署前) 集会所1階 093-592-6900
題 「安全な介助の仕方」
講師 理学療法士 下畑博正先生

学習会

ご案内